

オーディオ実験室収載

Garrard 401 の再構成(14) —フォノイコライザーの交換(4)—

1. はじめに

前報(13)に引き続き、フォノ入力のある、マランツ 7 タイプキットプリアンプを使用します。

2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

前報(11)ではフォノ入力のあるプリアンプとして三栄無線のマランツ 7 タイプキットプリアンプを、前報(12)では Leak Point 1 プリアンプを、前報(13)ではしなの音蔵プリアンプを、それぞれ仮置きで順次入れ替えて試聴し、その音質を比較してきました。その結果、Leak Point 1 プリアンプを使用してきましたが、JBL4350A を使用しますと、ダブルウーファー駆動用の Heath Kit の W5M アンプのゲインが低いために全体のレベルを落とさざるを得ず、ゲインの低い Leak Point 1 プリアンプで十分な音量は得られにくい問題がありました。そこで、第二リスニングルームの Arden 駆動用のマランツ 7 タイプキットプリアンプに交換することにしました。

再生経路は次のとおりとします。

FAL C90EXW のシステム

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→マランツ 7 タイプキットプリアンプ (フォノ入力→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→Brooklyn DAC+ (ライン入力→バランス出力端子) →(バランスケーブル)→(P&フェーダー (バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

JBL4350A のシステム

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→マランツ 7 タイプキットプリアンプ (フォノ入力→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→Brooklyn DAC+ (ライン入力→バランス出力端子) →(バランスケーブル)→P&G フェーダー (バランス入力端子→バランス出力端子)→(位相反転ケーブル) →(バランス/アンバランス変換プラグ: 2 番ホット) →(アンバランスケーブル)→アキュフェーズ F-15 チャンネルデバイダー→マルチアンプ駆動系

音源は、前報(11)と同じ盤を使用しました。



3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

音質的には、前報(11)の再現が取れ、Brooklyn DAC+の LINE 入力での位相反転も確認できました。

Leak Point1において問題があったゲイン不足は、JBL4350A のシステムでも解消し、駆動に余裕がでてきました。

4. まとめ

マランツ 7 タイプキットプリアンプのフォノ入力による再生が可能となり、ゲインも問題なく、Brooklyn DAC+の LINE 入力での位相反転も確認できました。

以上